

## 演習内容届

法人・団体名	
--------	--

### 1. 「4(2) 福祉用具の活用」の内容

科目番号 演習概要	記号番号	演習方法及び演習内容

### <演習で使用する備品一覧表>

記号 番号	品 名	数量	記号 番号	品 名	数量

備品種別	A	排泄関連用具	B	入浴関連用具	C	移動関連用具
	D	移乗関連用具	E	起居関連用具	F	その他の福祉用具

- ※1 「科目番号」は「福祉用具専門相談員講習課程」(別添 2-1)の科目番号を記載する。
- ※2 「記号番号」は、上記「備品種別」により分類された種別(A~F)ごとに、番号を付して記載するものとする。
- ※3 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」(別紙 2)に沿って定めるものとし、科目番号ごと、使用する福祉用具の種別ごと、又は、日常生活場面ごと等、実際に行う演習内容の区分に従って、記載すること。
- ※4 備品については、「演習使用物品等一覧(参考備品)」(別紙 4)等を参考に選定し、受講者が適切に演習を行うことができるだけの数量を確保すること。  
(概ね受講者 7~8 名に 1 台準備することが望ましい。)
- ※5 欄が不足する場合は、適宜、行や用紙を追加すること。

## 2. 「6 福祉用具による支援の手順と福祉用具貸与計画等の作成」の内容

事例の内容	演習方法	演習内容

※1 「事例の内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」（別紙2）に記載されている事例（脳卒中による後遺症、廃用症候群、認知症などの高齢者に多い状態像とし、地域包括ケアにおける福祉用具貸与等の役割や他職種との連携に関する理解が深まるもの）を含むこと。

また、複数の事例を作成し、演習に活用することが望ましい。

※2 「演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」（別紙2）に沿って定めるものとする。

記載例

(別添 2 - 7)

演習内容届

法人・団体名	〇〇〇〇株式会社
--------	----------

要領別紙3「福祉用具専門相違団員指定講習における目的、到達目標及び内容の指針」の到達目標及び内容に沿って、講師が実際に行う演習の方法及び内容を記載すること。  
記載にあたっては、講師と十分に調整すること。

1. 「4(2) 福祉用具の活用」の内容

科目番号 演習概要	記号番号	演習方法及び演習内容
4(2) ① 起居・移乗動作の場面	D①、D②、 D③、E①、 E②、E③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1グループ5～6人に分かれて、ギャッジアップ機能やベッド用手すりを使用してのベッドからの起き上がり動作、スライディングボードを使用して車いすへの移乗、・・・などの実習を行い、福祉用具の使用方法を習得させる。</li> <li>・ 実習はグループ単位で行い、福祉用具を利用しての移乗動作について、講師の指導の下、受講者間でも互いに確認しながら・・・技術の習得を図る。</li> <li>・ 〇〇〇を使用して〇〇の実技を行うことで、介護者に負担が少ない介助の方法、・・・等の技術を習得し、利用者及び介助者に安全な使用方法を伝えること等についての演習を行う。</li> <li>・ 〇〇〇・△△△の組み立て、使用方法、安全に使用するための点検技術を習得させる。・・・等</li> </ul>
4(2) ① 移動動作の場面	C①、C②、 C③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行器、車いすの操作、・・・の実習を行う。</li> <li>・ 〇〇〇・△△△の組み立て、使用方法、安全に使用するための点検技術を習得させる。</li> <li>・ 2人1組になって、利用者に合った福祉用具の選定・適合の演習及び利用者・家族に対して使用方法を説明する場面での演習（操作方法・留意点の説明・実技等）を相互に実施する。・・・等</li> </ul>
4(2) ② 入浴、排泄場面	B①、B②、 B③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1グループ5～6人に分かれて、福祉用具を利用しながら演習を行う。</li> <li>・ 使用者の体格、障がい等の部位や程度などをイメージしながら、状態像に合わせて福祉用具を選定し、体格等に合うように、高さ等の調節を行うなど、適合技術を体得させる。</li> <li>・ 〇〇用具の組み立てを行うとともに、安全に利用するための点検技術を習得させる。</li> <li>・ 実習はグループ単位で行い、講師の指導の下、グループ内で使用方法や選定の際の留意点等の確認を行いながら、実習を行う。・・・等</li> </ul>

<演習で使用する備品一覧表>

記号番号	品名	数量	記号番号	品名	数量
A①	ポータブルトイレ	4台	D①	スライディングマット	5枚
B①	簡易浴槽	4台	D②	スライディングボード	5枚
B③	入浴用いす	6台	D③	介助用ベルト	5本
B④	入浴台	4台	E①	特殊寝台	5台
C①	車いす	6台	E②	サイドレール	5台
C②	歩行器	5台	E③	ベッド用手すり	5台
C③	歩行補助杖	6本			

備品種別	A	排泄関連用具	B	入浴関連用具	C	移動関連用具
	D	移乗関連用具	E	起居関連用具		その他の福祉用具

※1 「科目番号」は「福祉用具専門相談員講習課程」（別添 2-1）の科目番号を記載する。

※2 「記号番号」は、上記「備品種別」により分類された種別を記載するものとする。

※3 「演習方法及び演習内容」は、「福祉用具専門相談員指定講習課程」の指針（別紙 2）に沿って定めるものとし、科目番号ごと、日常生活場面ごと等、実際に行う演習内容の区分に従って、品名、数量等を記載すること。

※4 備品については、「演習使用物品等一覧（参考備品）」（別紙 4）等を参考に選定し、受講者が適切に演習を行うことができるだけの数量を確保すること。  
（概ね受講者 7～8 名に 1 台準備することが望ましい。）

※5 欄が不足する場合は、適宜、行や用紙を追加すること。

別紙 4「演習使用物品等一覧」（福祉用具・特定福祉用具の種目の中から実習に使用するための備品を参考に例示したもの）等を参考にして、演習で使用する備品を用意し、品名、台数等を記載すること。

